

淡路

今できること 淡路JICの思い

昔の話ですが…。慶野松原にある海の家でアルバイトをしていたとき、人命救助をしたことがあります。浜辺をぶらぶらしていると、海岸から15メートルの沖合で、女の子が一人用のゴムボートに乗り、男の子が泳ぎながらボートを揺らして遊んでいるのが見えました。後で分かりましたが、女の子は3歳で、男の子は兄で5歳でした。そのうち兄がボートを揺らしたため、そのように、ボートが転覆して妹が海中に投げ出されました。

もちろん、立てるような浅瀬ではありません。急いで助けにいきましたが、そのときの兄の行動は今も忘れません。兄が妹を助けようと、海中で必死になって妹を押し上げていたのです。私は妹と兄を抱きかかえて岸まで泳ぎました。

妹は相当怖かったのだでしょう、しばらく私の首にしがみついて離れませんでした。救助が少しでも遅れたら？人とも命にかかわったかもしれない。岸にたどり着くと、海水浴客が拍手

淡路青年会議所 前川肇監事(39)



中学生時代の前川監事(左下)。「祭りとなると、だんじりが出て、大変楽しかった」と振り返る

普通に「ありがとう」と声かけを

してくれていますね。内心、とてもうれしかったです。高校3年の夏休み、もう20年も昔の出来事です。私が子供のころは、3世代が1つ屋根の下に暮らすのが普通でした。私はおじいちゃん、おばあちゃんに育ててもらいましたし、しつけもおじいちゃんたちに教わりました。

南あわじ市松帆江原で生まれ、中学まで淡路島で暮らしました。近くの神社が一番の遊び場で、とても好奇心旺盛でした。祭りにもきまかだったのが思い出としてあります。27歳のときに淡路島に戻ってきましたが、いま、学校を卒業すると、そのまま淡路島を後にして戻らないケース

が多いですね。世代間交流ができなくなっています。また、いまの子供たちはゲーム機ばかりで、本当の遊びを知らないように思えます。私は淡路JICで社会貢献活動をしていますが、何をやるにしても基本は「人」だと思います。淡路島を支えるのも返魂させるのも「人」です。自分

自身、襟を正して自分はどうあるべきかをはっきりさせないと、「人」にものがいえる自分になれません。そして一般常識をもって強い意志で行動しなければなりません。そうすれば、困ったとき、たれかが助けてくれるだろうと思えます。いまの時代、普通のことをしなくなっているような気がします。例えば「こんにちは」とか「ありがとう」とか声をかけるといった普通のことか少なくなっているように思います。私がいま、「こんにちは」にられるのは先生のおかげだと普通に思っています。私の面倒をよくみてくれました。たれにでも温かく見守ってくれる人がいます。私はこれからも普通に「こんにちは」「ありがとう」と声をかけていきます。

-
- ニュースのご連絡は
洲本支局
〒656-0026
洲本市栄町2-2-15
(本岡ビル2階)
0799(22)1450
FAX 0799(25)2125
- 姫路支局
〒670-0921
姫路市総町119
姫路不動ビル内
079(224)5551
FAX 079(226)3191
駐在
加古川 079(421)7520
- 豊岡支局
〒668-0025
豊岡市幸町13-20
0786(22)6151
FAX 0796(29)2338
通信部
香住 0796(36)4499
- 神戸総局
〒650-0015
神戸市中央区
多田通4-1-5
078(351)1771
FAX 078(361)3001
- 阪神支局
〒662-0918
西宮市六湛寺町9-11
0798(33)5881
FAX 0798(37)2477
通信部
尼崎 06(6421)2545
.....